

## 8日 木曜

### 列王Ⅱ

20:12 そのころ、バルアダンの子、バビロンの王メロダク・バルアダンは使者を遣わして、手紙と贈り物をヒゼキヤに届けた。ヒゼキヤが病気だったことを聞いていたからである。

20:13 ヒゼキヤは彼らを歓迎して、すべての宝庫、銀、金、香料、高価な油、武器庫、彼の宝物倉にあるすべての物を彼らに見せた。ヒゼキヤがその家の中、および国中で、彼らに見せなかった物は一つもなかった。

20:14 預言者イザヤはヒゼキヤ王のところに来て、彼に尋ねた。「あの人たちは何と言いましたか。どこから来たのですか。」ヒゼキヤは「遠い国、バビロンから来ました」と答えた。

20:15 イザヤは言った。「彼らはあなたの家で何を見たのですか。」ヒゼキヤは答えた。「私の家の中のすべての物を見ました。私の宝物倉の中で彼らに見せなかった物はありません。」

20:16 イザヤはヒゼキヤに言った。「【主】のことばを聞きなさい。」

20:17 見よ。あなたの家にある物、あなたの父祖たちが今日まで蓄えてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日々が来る。何一つ残されることはない——【主】は言われる——。

20:18 また、あなたが生む、あなた自身の息子たちの中には、捕らえられてバビロンの王の宮殿で宦官となる者がいる。」

20:19 ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告げてくれた【主】のことばはありがたい。」彼は、自分が生きている間は平和と安



定があるのではないかと、思ったのである。  
20:20 ヒゼキヤについてのその他の事柄、彼のすべての功績、彼が貯水池と水道を造り、都に水を引いたこと、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。  
20:21 ヒゼキヤは先祖とともに眠りにつき、その子マナセが代わって王となった。

この記事は歴代誌の以下の部分に相当します。「(32:25) ところが、ヒゼキヤは、自分に与えられた恵みにしたがって報いようとせず、かえってその心を高ぶらせた。そこで、彼の上に、また、ユダとエルサレムの上に御怒りが下った。

(32:26) しかしヒゼキヤが、その心の高ぶりを捨ててへりくだり、彼およびエルサレムの住民もそうしたので、主の怒りは、ヒゼキヤの時代には彼らの上に臨まなかった。」

彼は自分の回復祝いに遠国から使者が来たことを喜び、自慢したくなったのでしょうか。自分にあるものはすべて主のものなのに、「高ぶり」によって披露したのです。

主のものなのに自分で得たかのようにするのは、嘘であり、主を軽んじることです。私たちが気をつけなければなりません。

「自分が生きている間は、平和で安定があるのではないか」というのは、上の32:26に相当します。彼は自分さえよければ死後はどうでも良いと思ったのではなく、「心の高ぶりを捨ててへりくだり」、主がしばらくの間は平和と安全を与えてくださるといふ、あわれみに感謝したようです。

(原文には「思った」とだけ記されていて、「からである」という表現はありません)

ヒゼキヤのように良い信仰で主に従っていれば祝福がありますが、それも主からのものであって自分の力ではないのですから、私たちはいつも謙遜に主の恵を証ししましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

